

2013年度

学校情報の公表

2014年11月1日(土)

学校法人川原学園

東京動物専門学校

目 次

1. はじめに	1
2. 学校概要	1
3. 教育活動	2
4. 学業成果	3
5. 学生支援	4
6. 教育環境	4
7. 学生募集	5
8. 財務	6
9. 地域貢献・地域連携	6
10. 表	
表 1 平成25年度 卒業生就職状況	8
表 2 平成25年度中に学校主導で取得した資格	9
表 3 過去7年間の自主退学者数と退学時期	10
表 4 学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数	11
表 5 八千代本校舎 学生利用施設	12
表 6 富里実習施設主要動物舎	13
表 7 富里実習施設教材動物	14
表 8 看護コース実習室 実習用設備、及び備品	15
表 9 財務消費比較表（5カ年）	16

1. はじめに

東京動物専門学校は、1987年東京都三田に東京動植物専門学校としてスタートし、1990年千葉県知事より専修学校の許可を得て、学校法人川原学園、東京動物専門学校として開校しました。開校にあわせて千葉県八千代市に八千代本校舎、富里市に富里実習施設も完成し、動物管理技術者を養成する専門学校として今日に至っております。

学校創設から20数年経過し、多くの卒業生が北海道から九州沖縄まで動物園や水族館をはじめ多くの動物関連施設にて動物と一緒に働いております。

学校の校訓は「心・知・技・体」であり、動物に対する正しい考え方（心）、最小限必要な知識（知）、基本的な技術（技）、及び健康な体（体）をバランス良く備えた技術者を育成することです。動物関連業務を取り巻く環境は、他の分野同様、時代の変遷と共に大きく変化し、それらの変化に対応した技術者を養成する教育に取り組みことを責務と考えております。

また2013年(平成25年)には更なる職業教育の充実を図る観点から、企業等との密接な連携により、最新の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する制度ができ、東京動物専門学校(以下本学)も2014年(平成26年)3月にその認可を受け、職業教育やキャリア教育の充実に努めてまいります。また学校情報について従前通り公表して次第です。

2. 学校概要

(1) 校訓

東京動物専門学校の校訓は「心・知・技・体」である。これは、動物管理技術者(動物飼育技術者と動物看護技術者を総称して動物管理技術者と呼ぶ)に必要な仕事、または動物に対する正しい考え方(心)、最小限必要な知識(知)、基本的な技術(技)、及び健康な体(体)をバランス良く兼ね備えた技術者を育成することである。このうち、学校の授業で教授できるものは「知」と「技」であり、「心」と「体」は2年間の学校生活を通じての様々な体験より身に付くものであると考えられる。

(2) 学校の歩み

① 学校誕生

東京動物専門学校は、川原鳥獣貿易株式会社が母体となっている。前理事長川原義郎は、全国の動物園や水族館からの要望に応じて世界中から動植物を取り扱ってきた。その仕事を通じて、これらの飼育現場には、動物に対する正しい知識と技術をもった人材がますます必要になると感じ、動物の飼育や看護の専

門技術者を養成する学校を設立した。

② 学校の概要

名称 学校法人 川原学園 東京動物専門学校

住所 〒276-0046

千葉県八千代市大和新田1093番8号

TEL 047-459-0511 (代)

フリーダイヤル 0120-010520

沿革 1987年 4月 前理事長の川原義郎が東京都三田に東京動植物専門学院を設立し、開校

1989年 12月 八千代本校舎完成

1990年 2月 富里実習施設完成

1990年 3月 千葉県知事より専修学校の許可を得て、学校法人川原学園を設立し、植物部門を廃止すると共に、東京動物専門学校と校名を変更

1990年 4月 東京動物専門学校開校

1992年 3月 本校新校舎完成

1993年 4月 学科を統合し、コース制を導入

2014年 3月 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認可を受ける

課程 動物管理専門課程 動物管理科

動物飼育コース

動物看護コース

3. 教育活動

(1) 教科数、体系と目標

授業教科は2年間、49科目数、87単位で構成されている。2年間での総授業時間2,451時間で、内講義は945時間、実習は1,506時間。詳しくは、職業実践専門過程の基本情報にて、授業科目等の概要を示す。

実習のひとつとして施設研修を2年次後期に実施している。職業教育協定書(事業契約契約書)を締結した事業者のもとにて基本的には4週間(総時間数182時間)の動物飼育実習分野における実践的な職業教育を受け、就職に結びつけている。

(2) 資格試験(各種資格)

潜水士/ダイビング、危険物取扱者(丙種、乙種)及び救命法講習会(基礎・救命員養成)について、取得方法の指導、試験についての相談、アドバイス等、資格取得講座を開設し希望者には受講させている。

(3) 教職員

2013年(平成25年)5月1日現在の教職員数は、総数で35名。

教員数 27名(本務 10名 兼務 17名)

職員数 8名(本務 8名 兼務 0名)

2013年度では、新入学生151名と前年同様であり、教職員体制は前年と同様な体制を維持した。

4. 学業成果

(1) 就職指導

① 就職指導の方法

本校での就職指導は、大別して3つの方法で行っている。

第一の方法は、全体指導である。1学年に入学した時点から、全学生に「就職のしおり」を配布すると同時に、教育課程の進行状況に合わせて就職に対する準備の方法を指導している。

第二に「就職ガイダンス」なる就職窓口を、学生課が週1回の割合で授業時間をさいて開き、個人的に就職の相談にのっている。

第三は、2学年後期(実践段階)に行われる施設研修である。学生が具体的に就職を希望する施設(企業)を決定し、学校が職業教育協定書の締結及び研修の申し込みをし、許可が与えられた場合に約4週間にわたって研修する。

専門学校で学ぶこととは、就職することとが結びついていることであり、就職学生に絶えず教示している。

② 就職状況

表1に2013年度(平成25年度)卒業生の就職状況を示した。平成25年度卒業132名で就職者数は128名、就職率97%でした。ちなみに就職希望者は128名であり、希望者全員が就職できました。

就職先は大半が動物関連業種であり、動物園、水族館、観光牧場、馬関連施設、酪農・畜産、実験動物、動物病院、ペット関連等非常に多岐にわたっている。

(2) 資格取得状況

表2に2013年度の学校主導で取得した資格状況を示した。国家資格の危険物取扱免許(乙種)、潜水士については、1学年次にて取得している。また民間資格の赤十字救急法救急員については、大半の学生が取得しており、緊急時での初期対応に役立つものと期待する。

(3) 自主退学者の状況

2007年より2013年まで7年間の自主退学者と退学時期をまとめたのが表3であ

る。2012年度では26名、2013年度（1学年のみ）では21名の自主退学者であり、理由として、進路変更、健康上の都合等であった。

5. 学生支援

(1) 学生相談

表4に、学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその述べ件数を2012年度2013年度と示した。内容は、学校関係、私生活と大別し、それぞれの項目を列記した。

まず、学校関係で出欠席に関する相談（指導）が多く、1学年2学年とも共通して件数が多い。次に定期試験に関する事項が多い。なお相談というより指導が大半であり、学習内容についての補習的指導であり、例年と変わらない。

私生活関係では特に1学年に健康面での相談が多く、全国から学生が集まっており、自宅を離れ、寮やアパートなどでの不慣れな新しい生活による健康状態での変調が出てきて相談となるものと思われる。

(2) 経済支援

① 特別奨学金制度

学生に対する経済的な支援体制のひとつとして、学費を無利子で貸与する特別奨学金制度を設けている。

② 独立行政法人日本学生支援機構による奨学金制度

公的なこの奨学金制度を受ける学生が多く、今後共学生の相談に懇切丁寧に対応し、経済支援の一環とする。

6. 教育環境

(1) 八千代本校舎及び学生利用施設

講義による知識の習得の場としての八千代本校舎は、1989年（本館）及び1992年（新館）に建設され、教室の面積によりコース別講義室（本館）と学科講義室（新館）に分かれている。また看護コースにおける臨床実習施設も本館内にある。

また学生利用施設として、自習施設（図書室）、福利施設としての学生ホールも備えている。詳細の面積等については、表5に示す。

また経年変化により、施設設備では照明設備、床Pタイル張り替え、火災報知器更新等、大掛かりな改修を実施した。2012年度に購入した校舎隣接地の土地について、学校祭にて活用しているが、その他の利活用方法等を検討し、学校運営の充実に寄与させる。

(2) 富里実習施設

表6に富里実習施設の主要動物舎面積を示す。動物舎は第1号より第22号まで22棟あり、そのほかに放飼場、馬場、馬放飼場、付属農園がある。これらの動物舎は、本校の学生が動物舎の構造を実際に理解できる目的で、学生等の実習を兼ねながら手造りしたものが多く、体験実習の成果である。また展示施設ではなく、あくまでも飼育施設であり、動物福祉に配慮した構造としている。

表7には、富里実習施設において飼育している教材となる動物を、大きく分類して示した。哺乳類から鳥類、は虫類、両生類、魚類まで動物園等で飼育されている。

(3) 実習用設備及び備品

看護コース実習室の設備及び備品を表8に挙げた。看護コースの学生は、卒業後動物病院へ就職することが多く、表中の設備は、通常の動物病院ではどこでも備えている器具類である。

(4) 防災対策

毎年7月に八千代校舎にて、近隣の消防署の協力を得て、火災防災訓練、12月に地震防災訓練を実施している。対象者は、学生及び教職員全員である。

7. 学生募集

(1) インターネットでの情報提供

インターネットのウェブ上で、ホームページを開き学校紹介を行っており、学校案内、学べること、キャンパス紹介、卒業生の活躍、オープンキャンパス案内、最新情報ブログなど内容は、随時最新の情報に更新している。また資料請求や問い合わせもウェブ上で行える。資料請求に基づき、学校案内を希望者には送付している。

(2) オープンキャンパス

① 学校説明会

学校説明会は、八千代校舎にて行い、学校及び学校生活全般の説明のほか、入学試験、学費、就職のことなど、なんでも質問できる。また校舎内の施設見学も併せてでき、学校内容を十分に理解、納得した上で試験に臨むよう入学希望者に説明する。学校説明会は、毎年3月より2月まで16回実施する。

② 授業見学

八千代校舎にて実際に学生が学ぶ様子を見学するもので、学校の雰囲気を体感することができる。また休憩時間には、在学生と話すこともでき、若者同士による情報交換の時でもある。授業見学は月～金曜日まで事前予約にて受け入れる。

③ 体験入学（実習体験）

富里実習施設の実習施設で実施している飼育実習の一部、動物のエサづくりやエサやり、乗馬体験などが体験できる。体験入学は、6月～9月の日曜日に8回ほど開催し、施設見学も体験入学実施月以外の時期に開催する。どちらも事前予約が必要である。

（3）学校訪問

関東圏の高等学校には庶務課の職員が募集依頼で訪問している。学校の担当者に直接面会し、学校案内に沿って情報提供するとともに、受入れ募集を依頼している。

8. 財務

表9に財務消費比較表にて平成21年度より平成25年度までの過去5カ年分を示す。入学生の増加に伴い、収入の大半を占める学費等の収入は増え、一方では消費支出も若干増加しているが、相対的には健全化の傾向を示している。

9. 地域貢献・地域連携

（1）学校祭

2013年9月20日から22日までの3日間、八千夫校舎内及び校庭にて、学校祭を実施し、延べ1万人以上の来場者で賑わった。富里実習施設より動物を持ってきて、動物専門学校ならではの内容であり、具体的には動物とのふれあい、エサやり、乗馬体験、動物たちのショーなど盛りだくさん実施した。近隣より多くの人々の来場があり、楽しい3日間のイベントとなった。

この学校祭は、開校以来継続的に学生が主体となり、企画立案・作成準備・実施といった過程をこなし、運営するものであり、学生たちのコミュニケーションやリーダーシップなどの養成に大いに役立つものである。

（2）麒麟キッズクラブ

毎年120名以上の「動物が大好きな子供たち」を集め、年に8回、富里実習施設での集い。一人でも多くの子供たちに正しい動物の接し方と飼育方法を学んで「命の尊さ」を感じて欲しいという願う気持ちから小学生を対象に「麒麟キッズクラブ」を創設した。富里実習施設内で、ヤギの乳でバター作りに挑戦したり、ウマやロバの世話や乗馬を楽しんだり、内容は盛りだくさんである。

施設内の専従職員が主体となるが、本校の学生もそれを手伝うことにより、より実践的な接客体験となる。

(3) 看護コース実習犬

看護コースの実習内容を充実させ、実践性を高めることと、学生に緊張感を持たせることを目標に、地域の一般家庭でペットとして飼育しているイヌを借用し、教材犬とし、グルーミングの実習を実施している。

表1：平成25年度 卒業生就職状況

(2014年5月1日現在)

卒業生数：132名
 就職者数：128名
 就職率：97%

就職先分野	企業数	求人数	就職者数
動物園	43	92	35
水族館	11	19	10
観光牧場	8	21	16
馬育成・管理	16	55	5
酪農・畜産	33	50	8
実験動物	8	64	3
動物病院	197	360	10
鳥獣卸業・販売	17	30	22
魚類卸業・販売	3	5	4
動物訓練	2	8	2
その他動物関連	12	73	7
動物関連外	—	—	6
総合計	350	777	128

* 卒業生132名中、就職希望者は128名

就職先分野	主な就職先
動物園	浜松市動物園、江戸川区自然動物園、※東京都恩賜上野動物園、※よこはま動物園ズーラシア、※秋田市大森山動物園、※静岡市立日本平動物園、※とくしま動物園、※大町山岳博物館、東武動物公園、伊豆シャボテン公園、那須どうぶつ王国、熱川バナナ・ワニ園、カドリー・ドミニオン、群馬サファリパーク、富士サファリパーク、池田動物園
水族館	※東京都葛西臨海水族園、※サンシャイン水族館、※アクアワールド茨城県大洗水族館、※鳥羽水族館、※(公財)しまね海洋館、※西海国立公園九十九島水族館「海きらら」
観光牧場	マザー牧場、成田ゆめ牧場、伊香保グリーン牧場、ダチョウ王国、(公財)ハーモニセンター、ミルク動物園
馬育成・管理	ホースライディングクラブバランス、ホープロッヂ乗馬牧場、瀬野川乗馬クラブ、浜松ホースランド
酪農・畜産	越川ファーム、関口牧場、菜の花牧場、平山牧場、丸一養鶏場、JA中春別酪農ヘルパー利用組合
実験動物	埼玉医科大学病院ゲノム医学研究センター、ケー・エー・シー、ジェー・エー・シー
動物病院	市原動物病院、川口動物医療センター、小鳥のセンター病院
鳥獣卸業・販売	うさぎのしっぽ、ジョイフル本田ペットワールド、ペットの専門店コジマ、ペット専門店ペットの気持ち南行徳店
魚類卸業・販売	Aqua Shop STORY
動物訓練	犬のしつけ教室DOGLY、杉浦愛犬警察犬訓練所
その他動物関連	宮内庁管理部馬車課、宮内庁式部職鴨場、東京税関麻薬探知犬飼育管理、島田動物舎ZOOKISS

※印は、嘱託又はアルバイト契約(更新条件付)

表 2 : 平成25年度中に学校主導で取得した資格

資 格 名	資格の区分 国家、民間資格	取得者数 (人)	
		1学年次学生	2学年次学生
危険物取扱免許 (乙種)	国家	5 1	0 (7 0)
潜 水 士	国家	7 0	4 (4 5)
赤十字救急法救急員	民間	1 4 0	0 (1 4 8)
		2 6 1	4
	合 計	2 6 5	【24年度 3 7 7】
			() 昨年度 1 学年次に取得した者

表 3 : 過去 7 年間の自主退学者数と退学時期

								単位 (人)
入学年度	入学者数	退学者合計 (退学割合%)	1 学年 前期	1 学年 後期	2 学年 前期	2 学年 後期	留年者	
2007年	128	16 (12.5)	6	6	4	0		
2008年	123	34 (27.6)	9	13	6	6	1 (卒業)	
2009年	97	11 (11.3)	6	3	1	1	2 (自主退学)	
2010年	98	26 (26.5)	8	13	1	4		
2011年	136	28 (20.6)	10	11	1	6	2 (自主退学)	
2012年	158	26 (16.5)	6	13	3	4	特別コース1 休学 1 (自主退学)	
2013年	150	21 (14.0)	6	15				
		退学割合 : 退学者数/入学者数						

表4：学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数

内 容	学 年	1 学年 (件数)		2 学年 (件数)	
		2012年度	2013年度	2012年度	2013年度
学 校 関 係					
学 校 生 活 全 般		0	0	0	0
進 路 変 更		1	1	1	0
友 人 関 係		0	0	0	0
出 欠 席		73	35	87	26
定 期 試 験		45	56	22	14
学 外 研 修		0	0	0	0
私 生 活 関 係					
健 康		22	13	3	0
私 生 活 全 般		9	0	0	0
将 来 へ の 不 安		0	0	0	0
		150	105	113	40

表 5 : 八千代本校舎 学生利用施設				
校 舎	用 途	名 称	面 積 [m ² (坪)]	備 考
本 館	コース別講義室	201 教室	60.75 (18.37)	
		301 教室	60.75 (18.37)	
		302 教室	60.75 (18.37)	
	実習施設	看護コース実習室	60.75 (18.37)	
	自習施設	図書室	33.77 (10.21)	※1
新 館	学科講義室	203-1 教室	120.66 (36.49)	※2
		203-2 教室	120.66 (36.49)	※2
		303 教室	279.30 (84.48)	
	福利施設	学生ホール	173.15 (52.37)	
※1 : 蔵書数 (2012年3月31日現在) 2,029冊				
※2 : 203-2 教室 (203-1) と合わせて、教室として使用可。				

表 6 : 富里實習施設主要動物舎

名 称	面 積 [m ² (坪)]
第 1 号 動物舎	1 6 4 . 3 7 (4 9 . 7 2)
第 2 号 動物舎	1 6 9 . 0 3 (5 1 . 1 3)
第 3 号 動物舎	2 5 2 . 5 2 (7 6 . 3 9)
第 4 号 動物舎	2 2 0 . 8 9 (6 6 . 3 9)
第 5 号 動物舎	1 8 2 . 3 5 (5 5 . 1 6)
第 6 号 動物舎	2 6 9 . 5 4 (8 1 . 5 4)
第 7 号 動物舎	3 3 3 . 2 5 (1 0 0 . 8 1)
第 8 号 動物舎	1 2 1 . 2 0 (3 6 . 6 6)
第 9 号 動物舎	2 4 4 . 3 5 (7 3 . 9 2)
第 1 0 号 動物舎	2 0 5 . 7 0 (6 2 . 2 2)
第 1 6 号 動物舎	6 7 . 5 0 (2 0 . 4 2)
第 1 7 号 動物舎	9 . 7 2 (2 . 9 4)
第 1 8 号 動物舎	3 2 . 4 0 (9 . 8 0)
第 2 1 号 動物舎	2 0 . 2 5 (6 . 1 3)
第 2 2 号 動物舎	5 1 . 1 5 (1 5 . 4 7)
放 飼 場	3 , 3 0 0 . 0 0 (9 9 8 . 2 5)
馬 場	2 , 0 0 0 . 0 0 (6 0 5 . 0 0)
馬 放 飼 場	2 , 6 0 7 . 0 0 (7 8 8 . 6 2)
付 属 農 場	2 , 1 3 7 . 0 0 (6 4 6 . 4 4)
合 計	1 2 , 3 8 8 . 2 2 (3 , 7 4 7 . 4 4)

表 7 : 富里実習施設教材動物

綱	目	科	種
哺乳綱	9	22	87
鳥綱	15	23	123
ハ虫綱	2	11	28
硬骨魚綱	6	6	14
合計	32	62	252
			(2014年3月末現在)

表 8 : 看護コース実習室 実習用設備、及び備品

	設備及び備品名称	数量		設備及び備品名称	数量
1	AC-1システムケージ L型	1	28	眼鏡セット	1
2	入院用ケージ	1	29	ウッド灯	1
3	体重計診療台	1	30	尿比重計	1
4	手術台	1	31	卓上タンパク比重計	1
5	動物全身麻酔装置	1	32	タンパク屈折計	1
6	心電図モニター	1	33	ヘマトクリットリーダー	5
7	レントゲンシステム	1	34	血球計算版(3種類)	17
8	レントゲンカセット	9	35	黄疸指数計	2
9	シャウカステン	1	36	聴診器(学生用)	20
10	グリット	1	37	聴診器(リットマン)	2
11	プロテクターグローブ	2	38	上皿天秤	1
12	プロテクターエプロン	1	39	電子天秤	1
13	無影灯	1	40	骨格標本	1
14	保育器	1	41	模型(眼・耳)	3
15	内視鏡	1	42	CPR DOG	1
16	自動高圧蒸気滅菌器	1	43	術衣・有窓布・無窓布	37
17	ガス滅菌器	1	44	グルーミング台	17
18	ガス滅菌器 カスト	1	45	シンク	4
19	ヘマトクリット遠心機	1	46	ハンドドライヤー	7
20	殺菌線消毒器	1	47	スタンドドライヤー	3
21	顕微鏡(モニター付)	1	48	毛刈り用バリカン	6
22	顕微鏡	27	49	シーラー	1
23	スケラー	2	50	術衣棚	1
24	輸液ポンプ	5	51	器械戸棚	1
25	検眼鏡・耳鏡付	1	52	物置戸棚	1
26	喉頭鏡	1	53	備品戸棚・物品棚	8
27	耳鏡セット アンテナ付	6			

表9：財務消費比較表（5ヵ年）

	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度
					(単位：千円)
帰属収入合計	378,229	356,284	311,783	241,512	251,999
基本金組入合計額	24,472	13,639	54,264	0	0
消費収入の部の合計	353,756	342,645	257,519	241,512	251,999
消費支出の部の合計	336,928	334,466	299,119	260,634	271,460
当年度消費支出超過額	16,828	8,179	△41,600	△19,121	△19,461
前年度消費支出超過額	△523,535	△531,715	△490,115	△470,994	△451,533
基本金取崩額					
翌年度消費収支超過額	△506,707	△523,535	△531,715	△490,115	△470,994
減価償却費	14,653	13,893	14,160	14,531	11,729
在籍者数(5月1日現在)	289名	273名	213名	187名	198名
教員数(本務・兼務)	27(10・17)名	27(10・17)名	26(9・17)名	24(9・15)名	24(9・15)名
定員に対する現員比較	120.42%	113.75%	88.75%	77.92%	82.50%